

スローガン 変革は未来への礎

はじめに

日本における青年会議所の起源は、1949 年に東京で誕生した東京青年商工会議所にさかのぼります。「新日本の再建は我々青年の仕事である」という使命の下、戦後復興の最前線に立った青年経済人が集い、地域と国の再生を志したのが始まりです。私たち JAYCEE は、個人の修練・社会への奉仕・世界との友情という三信条を掲げ、いつの時代も地域社会の課題解決と次代のリーダー育成を使命とし運動を展開してまいりました。

浦安青年会議所は、1981 年に全国で 690 番目の青年会議所として設立されました。当時の浦安は、第 2 期埋立事業が完了し、大型テーマパークの建設がスタートするとともに、千葉県で 27 番目の市制施行と、現在の浦安が「目指すべき未来像」として描き出された頃でした。こうして、高度経済成長期の余韻が地域を包み、大型テーマパークの開業が希望と賑わいをもたらしてから幾年も過ぎ、浦安の発展と共に活動が続けてきた浦安青年会議所も、2025 年に創立 45 周年の節目を迎えました。

私が浦安に移り住んだのは、2011 年 3 月。東日本大震災のわずか 10 日前のことでした。3 月 11 日、都心の高層ビルで激しい揺れに襲われ、震える手で仙台にいる母へ電話をかけ、「必ず生きて会おう」と誓い合った瞬間を、今も鮮明に覚えています。震災では高校時代の友人を失い、その深い悲しみと無力感が防災の必要性を私の胸に強く刻みしました。やがて母校には災害科学科が創設され、悲しみを希望に変えた先生方の行動に心を動かされ、私自身も思いを行動に変えなければならぬと、強い決意が芽生えました。この経験は、浦安で暮らす大切な人々を守るために、防災の記憶を語り継ぎ、暮らしに防災文化を根付かせたいという使命感へと昇華しました。そして私は浦安青年会議所の先頭に立ち、この地域をより良く変革する覚悟を固めたのです。

今、浦安市は、都市としての成熟期を迎えました。表面上は整備されたまち並み、高い住民満足度、強固なブランド力を維持し、豊かさの象徴のようなまちとなっています。しかしその裏側では、静かに成長の副作用が進行しています。コロナ禍では税収が深刻に落ち込み、産業構造が観光需要のショックに弱いことが明らかとなりました。さらに、2024 年に生産年齢人口がピークアウトし、着実に深刻化する少子高齢化と、それに伴う地域団体や企業における担い手不足。また、自治会加入率は 2013 年の 51.4%から 2023 年には 44.3%まで低下し、地域コミュニティの希薄化も課題です。そして、東日本大震災で得た教訓が風化しつつある昨今、事前の備えにより助かる命、守れる未来があることを忘れてはなりません。また、直近の市民意識調査では、若年層の地域への関心の低さが示されています。これは、まちや社会の課題を「自分ごと化できる人財の不足」の常態化が既に始まっているということです。これらの課題はすべて、浦安が選ばれるまちであり続けるか、それとも過ぎ去られるまちへ転じるかを左右する分岐点です。

課題が顕在化した今こそ、浦安青年会議所の真価が問われています。私たち一人ひとりが変化を恐れず、起点となる覚悟をもって踏み出すその一歩は、小さくとも確かな未来を築く投資なのです。現在当たり前にあるこの豊かさは、先人たちの挑戦と変革の賜物です。これを継承していくにあたり、今を生きる私たちもまた、挑戦と変革により目指すべき未来像を描き、創造していく責任があるのです。10 年後、20 年後の浦安は、急速に変わりゆく時代の中でも、世代や多様な文化の違いを超えて人と人が有機的につながり、世代が絶えず循環する都市として、選ばれるまちでありたい。その実現には、地域課題の解決と社会開発に挑み続ける「変革する人財」を連鎖させていく必要があります。私たち浦安青年会議所は、多様な主体と共創しながら、この連鎖を生み出す学び舎となり、成熟期を迎えてもなお成長し続ける、希望に満ちた浦安を築いてまいります。

【成熟期から、持続可能な国際都市浦安へ】

浦安市の観光は、一大テーマリゾートという圧倒的磁力でまちの発展を牽引してきました。この成功は、かつて小さな漁師町だった浦安が高度経済成長期に漁業権を放棄し、大胆な決断で世界的観光地への道を切り拓いた変革の歴史です。しかし、ひとつの成功に依存して得られる繁栄は、必ずしも恒久的とは言えません。経済環境や社会構造が変化する中で、成熟期を迎えた浦安が持続的な発展を続けるためには、これに加え内発的成長と地域特性を活かした国際交流による価値創造型モデルの構築が必要です。

その第一歩は、市民一人ひとりの意識変革です。まずは市民が浦安の歴史とまちの移り変わりを学び、浦安の未来像を描き、行動へとつなぐ、市民参画型の未来会議を開催します。そこでは、多世代・多職種の多様な意見や価値観を知ること、これからどのような未来像を描いていくのかを議論します。未来会議は、市民自らが次代の浦安を創造する力を育む舞台となります。

また、浦安の発展の歴史そのものが、世界に誇る独自の資産です。小さな漁師町から世界的観光地へと発展した物語は、単なる過去の成功例ではなく、未来を形づくるための貴重な教材です。浦安の価値を再発見するためにこの物語を核に据え、浦安ブランドとして国内外に発信することで、「世界から人と知恵を呼び込み、地域の価値と魅力を発信し合う、交流型の国際都市」という理念を具現化していきます。

この理念を実践に移す挑戦が、JCI アカデミーの誘致です。JCI アカデミーは、世界各国から次世代のリーダーが集い、研修や市民との交流を通じて地域の魅力を体感する国際的な人財育成の舞台です。浦安青年会議所は、2025 年に創立 45 周年を迎え、記念式典や記念事業、そして 20 年ぶりの千葉ブロック大会の主管という大きな事業を経験し、多様なステークホルダーとの連携強化や組織力を磨きました。こうした経験を積み、地域と共に成長してきた私たちだからこそ、次なる大きな挑戦として国際事業に挑むのです。JCI アカデミーの開催は、市民が世界のリーダーと出会い、交流する中で、浦安の価値を再発見できる舞台となります。同時に、浦安の変革の歴史を生きた教材として世界に示し、次世代へと継承する大きな一歩です。

一大テーマリゾートは、このビジョンを実現するための強力な世界との接点です。その接点の先に、文化・経済活動・生活の営みを重ね合わせることで、外から訪れる人々にとっても、地域に住む人々にとっても価値のある「内発的な浦安ブランド」を形成していきます。

市民がまちの歴史を学び、未来を描き、行動する力を高めることは、成熟期を迎えた浦安から次代の物語をつくる挑戦の原動力です。そして、その挑戦が新たな価値を生み、連鎖していくことで、浦安市は持続可能で魅力あふれる国際都市として発展を続けます。JCI アカデミーの誘致は、変革の歴史を未来へ継承する礎となるのです。

【ともに築き、暮らしに根付かせる防災文化】

浦安市の約 4 分の 3 は埋立地であり、2011 年の東日本大震災では液状化やライフラインの寸断など、日常生活を一変させる深刻な被害を受けました。普段の暮らしが一瞬にして奪われたあの記憶は、決して忘れてはならない教訓です。首都直下型地震の発生が懸念される今、17 万人の市民と年間 3,000 万人を超える来訪者が行き交う浦安市においては、行政だけに頼らない共助の仕組みを構築し、浸透させることが急務です。

しかし震災から 15 年が経過しようとしている現在、少子高齢化や転出入の多さによって、近隣同士のつながりは年々希薄化しています。制度や設備が整っていても、平時から誰が・いつ・どこで・どう動くのかを共有し、身体感覚として身につけていなければ、災害発生時に咄嗟の行動はできません。地域の安全を守るのは、机上の計画や設備だけではなく、人と人の信頼と関係性なのです。

今、このまちに本当に必要とされている防災力とは、「顔の見える関係づくり」です。住民・企業・学校・行政が垣根を越えて集まり、まちの弱点や強みを洗い出しながら、互いに補完し合える備えを築いていく。その過程そのものが、地域を結びつける力となります。そして、備えを暮らしや学びの中に組み込み、日常的に磨き直し、定期的に訓練を重ねることで、防災は特別な行為ではなく生活の一部となります。

こうした取り組みが根付けば、災害発生時には一人ひとりが迷わず役割を果たし、互いを支え合える環境が整います。備えを共につくり、学びを深め、危機を乗り越えるこの循

環は、自助・共助・公助を柔軟に結びつけ、被害の最小化と早期復旧を可能にします。これは単なる防災活動ではなく、地域の信頼関係を育む営みであり、日常の暮らしを豊かにする文化でもあります。

私たちは、世代や立場を超えて人と人をつなぐ架け橋となり、この循環を磨き続け、次世代へ手渡していきます。日常の挨拶や地域行事への参加といった小さな行動こそが、非常時における大きな命綱になります。こうした暮らしに根付いた防災文化が、未来を守る礎となるのです。

【浦安の未来を担う人財育成】

第3期千葉県地方創生総合戦略によれば、将来の夢や目標を持つ児童生徒の割合は、小学生で80.5%、中学生で66.2%（2022年度）と報告されています。学年が上がるにつれてこの割合が減少する背景には、子どもたちを取り巻く情報環境の急激な変化があると考えられます。SNSや生成AIの急速な普及により、子どもたちは日常的に膨大な情報に触れています。これは自分の現在地を客観的に把握し、将来像から逆算して行動を設計する可能性を広げる一方で、理想と現実のギャップを過度に意識させ、挑戦を諦める要因にもなりかねません。

だからこそ、子どもたちに必要なのは、できない理由ではなく「どうすればできるか」という視点です。失敗は挫折ではなく、成功に近づくための最高の学びだからこそ、私たちは、子どもたちがその価値を実感し、自分にもできるという自己効力感を高められる場を提供します。さらに、失敗を受け入れ、互いを称え合う文化が根付けば、挑戦は一過性の行動にとどまらず、連鎖していきます。

令和5年度浦安市教育委員会点検・評価報告書によると、浦安市の不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、小学生は10年前の約8.3倍、中学生も約2.1倍に増加しています。挑戦の機会を失いかけている子どもたちが少なくない今だからこそ、「失敗を恐れず挑戦できる文化」を地域全体に根付かせることが、このまちの未来を切り拓く大切な鍵となるのです。

成功と失敗のサイクルが浦安という舞台で繰り返されれば、小さな達成感や役割意識が積み重なり、自分の力を信じる原動力となります。そしてやがて、自らの行動が周囲に変化を生み出しているという実感につながり、自分はこのまちの一員であり、必要とされているという所属感が芽生えていきます。関わりは単なる体験にとどまらず、自分とまちの唯一無二の物語へと昇華していくのです。

人とのつながりや温かなやりとりは、その場所への愛着を深め、もっとこのまちを良くしたいという内発的な思いへと発展していきます。これは「自分で考え行動する力＝自律性」「自分の力を発揮できる実感＝有能感」「人とのつながりや信頼関係＝関係性」の3つが満たされた状態であり、持続的な地域参画の基盤となるものです。

私たちは、挑戦の場を提供し、成功体験を積み重ね、失敗を学びに変える文化を体系的に構築します。そして、子どもたちが課題を発見・解決し、さらに次の挑戦へと自ら歩みを進められる仕組みを整え、浦安の未来を継続的に創り出す人財として育成してまいります。これこそが、浦安の未来を守り、変革を生み出す礎となるのです。

【多彩な仲間と紡ぐ未来への礎】

浦安市の生産年齢人口は2024年にピークアウトを迎えました。今後、少子高齢化と人口流動が進めば担い手不足は確実に深刻化し、地域行事や企業の現場においても次を託せる人財の減少は避けられません。知識や経験の継承が滞れば、地域の活力は衰えます。さらに、企業においても担い手不足は深刻です。厚生労働省の能力開発基本調査では、人材育成に課題を持つ事業所が約8割にのぼるとされており、企業の根幹ともいえる人財育成に十分なリソースを割けていない実態が示されています。

私は、浦安青年会議所に入会後に大きな挫折を経験しました。活動続ける意味を見失い、すべてを手放そうとした時、支えてくれたのはこの組織と仲間たちでした。居場所と役割を与えられ、仲間と共に苦難を乗り越える中で、確かな成長の実感を得ることができ、失われていた人生への希望を取り戻しました。まさにJCは私の人生に変革を起こした存在です。この経験があるからこそ、人は出会いと経験によって成長し、その成長こそが組織や地域を変革する原動力となるのだと確信するに至りました。

そこで私たちは、青年会議所がもつ実践型のリーダー育成の仕組みを最大化し、地域企業・関係団体・市民へ学びの場の門戸を広げ、共感から参加、参加からの参画への導線を設計します。私たちの強みは、実践的なリーダーシップ研修、世代と業種を横断する国内外のネットワーク、そして目の前の課題の解決だけではなく、理想の未来を描き、社会を開発していく運動の実体験ができることにあります。メンバーひとり一人がこれらの機会に果敢に挑戦し、立ちはだかる壁や自分自身の弱さと向き合い乗り越えていく過程で成長し、その成果が組織や地域社会の活性化へ連鎖していきます。

まずは、この仕組みを多くの地域企業や関係団体、市民に周知するために、見える化と発信を進め、対話の機会を充実させます。さらに、賛助企業やOB・OGとの交流の場を設け、相互の情報交換と知識を継承することが、この好循環を支える重要な基盤です。

そして、この学びの仕組みを会員拡大へとつなげることで、組織力と青年会議所の存在価値を同時に高めてまいります。会員拡大は目的ではなく、学びの成果を最大化し、人財を地域へ還元するための戦略です。志を同じくする多様な仲間の参画は視点を豊かにし、解ける課題の幅を広げます。加えて、青年会議所での活動は20歳から40歳までと限られており、40歳の卒業は終わりではなく、新たな変革の始まりです。青年会議所で培った経験があるからこそ、より大きな挑戦に踏み出すことができ、さらに後輩へ挑戦の精神と知恵を継承するとともに、自らも地域の未来を切り拓いていくのです。このような好循環を確立し、若きリーダーを起点として挑戦が生まれ続ける「人が活躍できるまち・浦安」を実現してまいります。

【未来を拓く、進化する組織運営】

浦安青年会議所は設立以来45年間、「会員の信頼と資質向上を基盤に、地域・国家の発展を促し、国際理解を深め、世界の平和と繁栄に寄与する」という使命に挑み続けてきました。しかし、社会構造や働き方が激変し、地域課題も複雑化する現在、従来の組織体制が最適かどうかを検証すべき時期を迎えています。

まず、メンバー全員で歴史を紐解き、先人が築いた合理性と価値を学び直します。そのうえで、リーダー育成組織として広く地域社会に門戸を開くため、デジタル化への対応と多様なライフスタイルを前提に運営をアップデートし、今とこれからの応える柔軟な仕組みを再設計します。柔軟な参加形態と役割設計を整え、多様な個性が力を発揮できる環境を構築することで、組織力は一段と高まります。

こうして生まれた事業は、連鎖するムーブメントへと成長します。結果として浦安の持続的発展に貢献できる組織であり続けるとともに、市民・企業・教育機関・行政との連携を強めることで、私たちの運動は地域課題の解決と社会開発に波及すると考えます。

この循環を支えるのが、鮮度の高い情報発信と一貫したブランディング戦略です。浦安青年会議所が地域に欠かせない存在であるという認知を拡大することで、さらに共創の輪が広がります。過去に学び、未来へ投資する。私たちはメンバーの成長と地域の発展を同時に牽引し続けます。

むすびに

人間には現状維持バイアスという機能が備わっており、未知や変化を避けて慣れ親しんだ環境にとどまろうとする防衛本能が働きます。しかし、社会が急速に変化する時代において、現状維持はもはや安全策ではなく、変化を拒むことは自分自身の成長を止め、組織の衰退を招く最大のリスクになり得ます。

浦安が高度経済成長期の追い風を受け、小さな漁師町から世界的観光地へと飛躍したのは、先人たちが未知への挑戦を選び続けたからです。彼らは漁業権を手放し、埋立事業に挑み、大型テーマパークの誘致という前例のない決断でまちの未来を切り拓きました。変革こそ浦安のDNAであり、これを次代へ継承する責任が私たちにはあります。

変革には痛みが伴います。多くの時間や労力、資源を必要とし、ときに失敗も避けられません。それでも挑戦を続ける理由はただ一つ。浦安の未来を担う人々に、課題を残すのではなく、無限の可能性を贈りたいからです。「変革は未来への礎」というスローガンは、未来との約束であり、共に活動する仲間への心からのエールです。青年会議所は、若者が集い修練を重ね、そこで培った力で地域に奉仕し、絆を育む舞台です。わずか30名ほどの組織でも、青年会議所の歴史が示す通り、志ある少数はやがて社会を動かす圧倒的多数へ

- 212 と連鎖します。共に歩み、変革の礎をこの浦安に築いてまいりましょう。
- 213
- 214 **【事業計画】**
- 215 ・新年式典の開催
- 216 ・総会の開催
- 217 ・世界に誇る浦安ブランド確立事業の実施
- 218 ・浦安未来会議の実施
- 219 ・JCI アカデミー誘致に向けた国際事業の実施
- 220 ・地域における防災力向上事業の開催
- 221 ・OB、OG、賛助会員との親睦会の開催
- 222 ・わんぱく相撲浦安場所実行委員会の発足
- 223 ・第 38 回わんぱく相撲浦安場所の開催
- 224 ・身近な課題を扱う PBL 型研修の開催
- 225 ・青年会議所運動の意義を学ぶ基礎研修とリーダー研修の開催
- 226 ・卒業式の開催
- 227 ・新入会員 12 名の入会
- 228 ・賛助会員 6 社の入会
- 229 ・友好団体との連携・協力
- 230 ・公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力
- 231 ・公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、千葉ブロック協議会の諸大会・諸会
- 232 議・諸事業の積極的な支援・協力